□**「プランタ」の発刊** New bimonthly journal, "Planta"　自然および自然を構成する植物についての一般の関心は従来にない昂まりを見せている。その折に，新しい一般誌が発刊されたことは非常に嬉しいニュースである。「植物の自然誌 プランタ」と題する本誌は，植物誌を扱い，その普及と啓発をねらいとするものである。1月1日発行の創刊号の特集のテーマは「絶滅危惧種を救おう」であって，これについて5篇の論説がある。特集は毎号企画され，2号の特集は「中国の植物」が予定されている。その他毎号企画されるコラムとして，植物園と植物学，私の植物研究，地域植物誌研究，由緒ある植物めぐりなどがある。また，当面の連載記事として，かたちとことば，コケの生物学，身近な有用植物などがあって，全体として内容は多彩で，話題も豊富である。各地の植物誌研究者やグループ，あるいは植物同好者にとって恰好の読物である。創刊号ということもあろうが，執筆者の側に気負いがあり，執筆についての戸惑いがあったように見えるが，号を追うにともなって肩の力がぬけてくることを期待したい。また一方では，記事の配列にあまりにも無駄がないので，巻頭にカラー写真の1枚があってもよいように思うし，息抜きのための囲み記事があってもよいかと思われる。2号からは，書評(1号の編集後記によれば新刊紹介）欄が設けられるとのことだが，自然誌に関する情報という見地から，新刊紹介欄は是非欲しいものの1つである。また，私の植物研究や地域植物誌研究の記事にも見られるように，地方の植物や植物誌研究者とプロの研究者との連繫を深めるための企画もあるが，さらに一歩進めて，各地の研究者やグループの活動を紹介するニュースの欄があって，ひろく情報を交換し合えるようになれば，両者に共通する自分達の出版物という感覚も芽生え，本誌の定着に寄与するのではなかろうか。いずれにしても，植物誌に取組む本格的な一般誌として定着し，永く出版されることを望んでやまない。B5版で創刊号は78頁。〒103 東京都中央区日本橋蛎殻町 1-6-4 研成社（振替 東京 7-64147）発行。定価500円，隔月刊，年間購読料3,000円。

（黒川　逍　Syo Kurokawa）

□岩間町史編さん資料収集委員会(編)：**いわまの自然** 212 pp. 1988. 岩間町教育委員会(茨城県西茨城郡岩間町). ¥2,000（送料 ¥300). 茨城県岩間町の自然環境とそこに生育する植物動物の調査報告書である。地元の人達の熱心な活動によって出来たもので，多数の美しいカラー写真を入れた見事な本である。植物は茨城大学の鈴木昌友氏の指導によるので，同定は確かである。地元の人の書いたものだけあって，動植物と人とのかかわりあいが随所にでてくる。この教育委員会からはさきにも「野口池湿原の植物」(1982)を出版していて，熱心な活動をしている。しかし，都市周辺の例にもれず，関東平野に僅かに残されたこの貴重な湿原も汚染や開発による環境破壊にさらされている。この本に述べられた美しい自然が，開発との調和のもとに残されるよう知恵をだしていきたい。

（山崎　敬）